



安全・安定輸送と黒字化の実現に向けて (その4)

東地申第12号 2021年度「政策提言」の申し入れ団体交渉実施しました

7項・DXを担う人材を育成するため「DX・IT研修」を実施すること。

7項・別紙説明(抜粋)

鉄道事業においてもデジタルツール導入による業務改革が進められているが、担い手の習熟を見極めながら、ステップを踏んで実行すべきである。また、現状において施策の説明について「不十分」との声が多く寄せられている。そもそも、前提となる知識や社会情勢への認識が説明する側に決定的に不足していると言える。これを克服するために以下の諸点について検討すること。

- (1) OJTの充実に向けて、教える側つまりリーダーの育成を図る。デジタル技術のスキル教育のために「DX・IT研修(入門編)」を実施する。
- (2) 単なるIT化ではなくDXの意味を理解し、これからの「DXによる変革」を担う人材を育成するために「DX・IT研修(応用編)」を実施する。

会社回答→引き続き、必要な教育は実施していく考えである。

8項・品川再開発地区に文化創造施設を併設・誘致すること。

8項・別紙説明(抜粋)

都市再開発において平休の人口問題は、そのプロジェクトの成否を左右する問題として指摘されている。つまり、休日の集客対策が重要なのである。品川再開発においても、オフィス、ホテル、商業、コンベンション施設に加えて、上品なエンターテイメントに関する施設の併設・誘致を検討すべきである。その場合、「JR東日本の街」を意識したものとして、以下の諸点について検討すること。

- (1) ユネスコ(イコモス)からの警告を受け止め、国の史跡である「高輪築堤」を活用する。大宮の鉄道博物館から、1号機関車などを含む鉄道黎明期の所屬品を移し、汐留の旧新橋停車場と併せて「鉄道博物館・明治館(仮称)」を設置する。
- (2) 「日本橋室町東地区開発」(COREDO室町)は、平成28年度土地活用モデル大賞を受賞した。とくに、敷地中央に位置する福德神社を囲む「福德の森」は、歴史とモダンが融合した空間として高く評価されている。そこで、品川再開発地区においても、新しい街の発展と安寧を祈る鎮守として、鉄道神社を遷宮ないし分祀して「鎮守の森」を造営する。

会社回答→街のシンボルとなる文化創造棟を設置し、企画・運営内容を検討中であると聞いている。